

## 1 【研究の計画】

本年度より研究主題を、「よさや可能性を発揮し合い、確かな資質・能力を育む特別活動～人間関係形成・社会参画・自己実現」とした。この研究主題に迫るために、3年間の計画的実践を行っていくこととする。以下は、年次ごとの計画である。

一年次 (本年度)	各校の子供の実態を基に、人間関係形成・社会参画・自己実現の中から重点項目を定め、身に付けさせたい資質・能力を明確にし、その育成の手立てや指導、評価方法について研究し、実践する。
二年次	一年次の実態を踏まえ、各校の子供の実態を見直し、改めて人間関係形成・社会参画・自己実現の重点項目の再設定し、身に付けさせたい資質・能力を明確にし、その育成の手立てや指導、評価方法について研究し、実践する。また、一年次の研究実践集録を参考にし、他校の実践を自校でも生かしていく。
三年次	一、二年次の実践から、子供の成長を見取り、確かな資質・能力の身に付いた子供の現れや、効果的であった手立てや指導、評価方法についての実践をまとめ、研究主題に迫るようにする。

## 2 【研究の目標】

研究主題に迫るために、本年度は、次の2点を目標に研究を進めることとする。

- ① 一人一人のよさや可能性を、様々な集団活動で発揮し合うための手立てを明らかにする。
- ② 確かな資質・能力を育むための指導と評価の方法について明らかにする。

浜松市教育研究会特別活動研究部として育成を目指す「確かな資質・能力」については、「自治的能力や主権者として積極的に社会に参画する力や他者と協働して生活上の課題を解決する力」として捉えていく。将来、子供たちが歩んでいく社会で生きて働く実践力でなくてはならない。そして、「一人一人のよさや可能性を、様々な集団活動で発揮し合う」ためには、教師の適切な指導の下、特別活動で最も重要な特質である自主的、実践的な活動を展開することを中心に、計画的、継続的に実践していくことが不可欠である。その経験は、やがて子供たちに経験したことのない状況も乗り越えていける力を育てていく。それはまさに、今、求められる資質・能力であると考ええる。

## 3 【研究の内容】

研究を進めるにあたり、次に示す2つの内容を中心に、それぞれの実践において、身に付けさせたい資質・能力を明確にし、その育成のための手立てや方法について研究を深めていく。

- ① 一人一人のよさや可能性を、様々な集団活動で発揮し合うための指導計画

子供たちの今の実態と将来の姿を見据え、年間や学期、あるいは、各実戦の中で発達段階に応じた活動を展開していくための指針となる指導計画について研究していく。以下は、そのポイントである。

- 「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の視点を踏まえた指導計画を作成する。
- 一人一人が集団の中で役割を果たしたり、活躍したりできるような指導計画を作成する。
- 学年間・学校間での接続の在り方を考え、学びの蓄積が継続されるような指導計画を作成する。

- ② 確かな資質・能力を育むための指導と評価の方法

指導については、集団活動のよさを生かしながらも、事前・本時・事後それぞれの活動における実践上の留意点にも目を向けていく。また、評価については、一人一人の変容を見取るために、自己評価に留まらず、よりよい相互評価の方法にも重点をおいて研究していく。以下は、そのポイントである。

- 「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の視点を踏まえた指導と評価の在り方を考える。
- 一人一人が集団の中で役割を果たしたり、活躍したりできるような具体的な指導を工夫する。
- 一人一人の変容を見取り、次の実践への意欲を高める個人内評価や相互評価の方法などの振り返りを工夫する。

学習指導要領では、特別活動で育む資質・能力は、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の三つの視点で整理されている。そして、これらの資質・能力を育成するために、集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決するといった「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うことが必要である。集団や社会の形成者としての見方・考え方とは、令和元年度のはままつの教育に次のように具体例が示されている。

- 年齢や性別といった属性、考え方や関心、意見の違い等を理解した上で、認め合おうとする見方・考え方
- 互いのよさを生かすような見方・考え方
- よりよい学級・学校生活づくりなど、集団や社会に参画し、様々な問題を主体的に解決しようとする見方・考え方
- 集団での関わりを通して、自己の理解を深め、自己のよさや可能性を生かす力を養うとともに、自己の在り方や生き方を考え設計しようとする見方・考え方

こうした見方・考え方は将来、社会生活を送る上で、生きて働く汎用的な見方・考え方にもつながる。集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせるということは、各教科の見方・考え方を総合的に働かせながら、自己及び集団や社会の問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に向けた実践に結び付けることである。

◎キャリア教育の目標と小中間のつながり

進路の探索・選択にかかる基盤形成	現実的探索と暫定的選択
小学校におけるキャリア教育の目標	中学校におけるキャリア教育の目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>○自己及び他者への積極的関心の形成・発展</li> <li>○身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上</li> <li>○夢や希望、憧れる自己のイメージの獲得</li> <li>○勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○肯定的自己理解と自己有用感の獲得</li> <li>○興味・関心等に基づく職業観・勤労観の形成</li> <li>○進路計画の立案と暫定的選択</li> <li>○生き方や進路に関する現実的探索</li> </ul>
計画的・系統的な実践の蓄積	

資料②-3

※ 文部科学省「キャリア教育の手引き」平成23年5月より

特別活動においては、集団の中で様々な役割を経験したり、当事者として話し合いに参加し、合意形成や意思決定をしたりしていくことが、新たな学習や生活への意欲を高めたり将来の生き方を考えたりすることにつながると考えられる。その際には、学習指導要領において、児童、生徒が活動を記録し、蓄積する教材等を活用することが示されているように、実践のみで終わるのではなく、活動を振り返り、その中で自分が果たした役割や友達の頑張りを整理し、次の活動へとつなげていくサイクルを設定していくことが重要である。こうした実践と振り返りのサイクルを計画的、系統的に設定していくことが、学級や学校等の集団の中で互いのよさや可能性を発揮しながら、よりよい生活を築くことにつながるのではないかと考えた。

以上のことから、特別活動の実践において、「話し合い、実践し、振り返る」という流れを繰り返し、蓄積していくことの重要性がますます高まっていると言えるだろう。そこで本研究では、「活動の立ち上げから計画、実践、振り返りといった一連の活動」を集団活動と押さえることとし、一人一人が互いのよさや可能性を発揮できる、よりよい生活を築くことを目指した集団活動の在り方を探っていくとともに、特別活動における主体的・対話的で深い学びについて、具体的な子供の姿を想像しながら、さらに研究を進めていきたい。

現在、私たち教師や子供たち一人一人、そして、そして社会全体が答えのない問いにどのように立ち向かうのかが問われている。今こそ、特別活動の特質である「互いの良さや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決する」ことを生かし、「子供たちに確かな資質・能力を育成するために、何を、どのように行っていくのか」について、私たち教師が真剣に向き合い、各学級、各学校で試行錯

誤し工夫して取り組むべきである。そのためには、目の前の事象から解決すべき課題を見だし、主体的に考え、様々な立場の者が協働的に議論し、納得する答えを生み出すことが重要である。そして、子供たちの一人一人の特性や教育的ニーズ。キャリア形成など子供の発達を把握し、様々な課題を乗り越えさせ、一人一人のよさや可能性を伸ばし、発揮し合えるようにしていくことが大切である。

これらを踏まえ、研究主題を「よさや可能性を発揮し合い、確かな資質・能力を育む特別活動～人間関係形成・社会参画・自己実現」とし、研究・研修を進めていきたい。

### ◎令和4年度の研究目標及び研究内容重点事項

#### 【研究目標】

- ① 一人一人のよさや可能性を、様々な集団活動で発揮し合うための指導計画
- ② 確かな資質・能力を育むための指導と評価の方法

#### 【特別活動で育む確かな資質・能力】

自治的能力や主権者として積極的に社会に参画する力や他者と協働して生活上の課題を解決する力

★ 人間関係形成 ★ 社会参画 ★ 自己実現

### ◎特別活動が目指す「資質・能力」の概要

	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
人間関係形成	多様な人と協働して活動する意義の理解やそのための方法	お互いの意見や考えの違いを尊重し、互いのよさや可能性を生かす関係をつくること	社会的集団における人間関係を、自主的、実践的によりよいものへと形成しようとする事
社会参画	自発的、自治的な集団活動の意義や活動を行う上で必要な合意形成するための方法	学級や学校の集団の生活の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ること	学級や学校の集団や活動に参画し、問題を主体的に解決することを通して、よりよい社会や生活を創造しようとする事
自己実現	自己実現に必要な自己理解を深め、意思決定するための方法	自己のよさや可能性を生かし、自己の在り方生き方を考え、設計するなどの意思決定ができること	現在及び将来の自己の生活の課題を発見し、目標を決めて取り組み、自己の可能性を拓こうとする事

※ 杉田洋編著『平成29年度版小学校新学習指導要領ポイント総整理』2017東洋館出版社 P.29よ 資料②-4

## 4 研究方法

- 特別活動年間計画、評価等、学習指導要領に対応して計画的に活動を推進していく。
  - 特別活動で育む確かな資質・能力と各校の取り組みとのつながりを明確にした活動の推進をしていく。
    - 各校での実践、年間計画の作成、レポートの作成
  - 小・中学校の交流をより充実させ、義務教育小・中学校9年間の内容の系統性を意識した研究・実践の推進を図っていく必要がある。
    - 中学校区での情報交換、第3回授業研修会
- (1) 研修会の開催
- 年間3回の研修会を開催する。
    - 特別活動で育む「共に生きる力」を明確にした実践や研究を紹介し合う。
  - 特別活動を先進的に研究推進されている方の講演を聴き、特別活動に対する見識を深める。